

【長崎県】雲仙市農業再生協議会



協議会の概要

申請件数・確認面積：1,072件、991ha

主な申請品目：麦、大豆、野菜、飼料作物、WCS、飼料用米

協議会事務局：市役所

経安主担当者：市職員 7名



長崎県雲仙市

現在の現地確認方法の導入経緯

- 農繁期と重なり、農業者、JA、市職員の負担が大きいことが課題だった。
- 地図を紙からタブレットに変更することにより現地にスムーズに行けるため人員を削減できると考え、導入した。

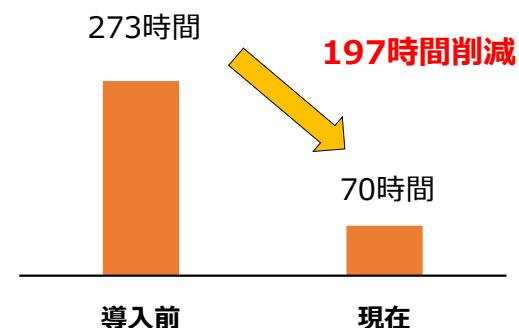
現地確認の方法（対象筆数：8,568筆）

	導入前（H30年度まで）	現在（R 1年度から）
方法	目視（紙地図）	目視（タブレット）
確認者	市、JA、NOSAI、農業者	市、JA、NOSAI
時期・回数	7月、11月、追加で数回	7月、11月、追加で数回
手順	<p>①現地確認説明会の準備開催、立札や紙地図、確認野帳の準備と地区への配布（市） ②1筆ごとに目視で確認（市、JA、NOSAI、農家） ③確認者から確認野帳の回収（市） ④確認結果を水田台帳へ入力、作物不明農地を目視で確認（市）</p>	<p>①現地確認説明会の準備開催、地図データの準備、確認野帳の準備と地区への配布（市） ②1筆ごとに目視で確認（市、JA、NOSAI） ③確認者から確認野帳の回収（市） ④確認結果を水田台帳へ入力、作物不明農地を目視で確認（市）</p>
費用	60万円（農業者への委託費）	70万円（確認地図の編集料等）

導入の効果（メリット）

- 紙地図よりも正確に農地の位置を把握できるため、農業者の立会いによる現地確認作業がゼロになり、人員を削減できた。
- 現地確認のための資料準備や地図の準備、現地確認後のシステム入力に要する時間が削減できた。

～現地確認時間～



課題・問題点（デメリット）

- 作物によって栽培時期が異なるため、時期に合わせて複数回現地確認に行く必要がある。
- データ容量が大きいため、確認作業中に機器がフリーズすることがある。

解決策

- 作業日誌等で確認